

付

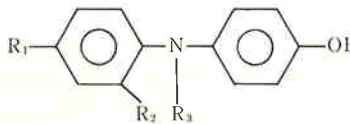
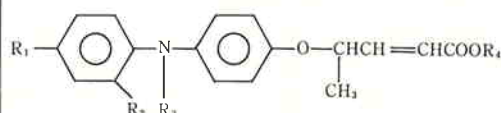
## 特許・実用新案登録一覽

—昭和61年度—

〈日本特許〉 70件

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
1	51-113721 (51. 9. 24) (川上 平野)	60-10097 (60. 3. 15) (登, 後藤 逸雄)	1297283 (61. 1. 20) (武司 洋一)	金属マグネシウムの製造装置	1 マグネシウム酸化物を高温炭素還元し, 得られた反応生物を大量の不活性ガスと接触させて急冷し, 金属マグネシウムを製造する装置において, 一方の側の炉壁の上部に反応物出口を, 又, 前記炉の中心軸を基準として, 前記反応物出口に略相対する位置の他方の側の炉壁に, ガス導管内径より小なるガス噴出口径を持つ前記不活性ガス吹込ノズルを設けたことを特徴とする金属マグネシウム製造装置。
2	52-72086 (52. 6. 20) (林 清水)	60-21602 (60. 5. 28) (隆夫, 坂中 明彦)	1297291 (61. 1. 20) (靖弘)	粉末状ポリクロロプレ ンゴムの製造方法	1 ノニオン性もしくはアニオン性のポリクロロプレ ンゴムラテックスに, その乾燥重量当り, 1~10重量%のメチルセルロースもしくはヒド ロキシメチルセルロースおよび1~20重量%の アルカリ金属の硫酸塩もしくは炭酸塩を水溶液 として加えて得られる混合物を, 該ポリクロ ロプレンゴムラテックスの乾燥重量当り1~20重 量%のアルカリ金属の塩化物もしくは硝酸塩を 含む水溶液中に滴下混合してゴムを粉末状に分 離させ, ついでこれにガラス転移温度が 30°C 以上の合成樹脂を該ポリクロロプレンゴムラテ ックスの乾燥重量当り1~40重量%の範囲でエ マルジョンとして加え, 脱水, 乾燥することを 特徴とする加工性のすぐれた粉末状ポリクロ ロプレンゴムの製造法。
3	53-91834 (53. 7. 27) (磯和 森 野中 小山 西村)	60-22918 (60. 6. 4) (義員, 大森 馨, 市川 悠次, 木原 清孝, 佐藤 滋哲)	1298289 (61. 1. 20) (宗樹 哲也 啓一 平次郎)	N-ベンジルオキシカル ボニール-L-アスパル チル-L-フェニルアラ ニンメチルエステル とフェニルアラニンメ チルエステルとの付加 化合物の製造方法	1 N-ベンジルオキシカルボニールアスパラ ギン酸とフェニルアラニンメチルエステルを金 属プロテアーゼの存在下に水性媒体中で反応系 を実質上静置状態に保持して反応させて, N- ベンジルオキシカルボニールアスパラギン酸と フェニルアラニンメチルエステルとのジペプチ ドエステルを生成させ, さらにこのジペプチド エステルとフェニルアラニンメチルエステルと の付加化合物を形成させることを特徴とするN -ベンジルオキシカルボニール-L-アスパルチル -L-フェニルアラニンメチルエステルとフェニ ルアラニンメチルエステルとの付加化合物の製 造方法。
4	53-91835 (53. 7. 27) (磯和 森 野中 小山 西村)	60-22919 (60. 6. 4) (義員, 大森 馨, 市川 悠次, 木原 清孝, 佐藤 滋哲)	1298290 (61. 1. 20) (宗樹 哲也 啓一 平次郎)	N-ベンジルオキシカル ボニール-L-アスパチ ル-L-フェニルアラニ ンメチルエステルとフ ェニルアラニンメチル エステルとの付加化合 物の製造方法	1 N-ベンジルオキシカルボニールアスパラ ギン酸とフェニルアラニンメチルエステルを水 性媒体中で金属プロテアーゼの存在下で反応さ せて, N-ベンジルオキシカルボニールアスパ ラギン酸とフェニルアラニンメチルエステルと のジペプチドエステルを生成させ, さらにこの ジペプチドエステルとフェニルアラニンメチル エステルとの付加化合物を形成させ, その際反 応媒体中のフェニルアラニンメチルエステルの 濃度が少なくとも約 $10^{-1}$ モル/lとなる様維持 し, ジペプチドエステルとフェニルアラニンメ チルエステルとの付加化合物を分離採取するこ とを特徴とするN-ベンジルオキシカルボニール

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					<p>L-アスパルチル-L-フェニルアラニンメチルエステルとフェニルアラニンメチルエステルとの付加化合物の製造方法。</p> <p>2 N-ベンジルオキシカルボニル-アスパラギン酸とフェニルアラニンメチルエステルを水性媒体中で金属プロテアーゼの存在下で反応させて、N-ベンジルオキシカルボニル-アスパラギン酸とフェニルアラニンメチルエステルとのジペプチドエステルを生成させ、さらにジペプチドエステルとフェニルアラニンメチルエステルとの付加化合物を形成させ、その際反応媒体中のフェニルアラニンメチルエステルの濃度が少なくとも約<math>10^{-1}</math>モル/lとなる様維持し、ジペプチドエステルとフェニルアラニンメチルエステルとの付加化合物を分離採取し、液相にN-ベンジルオキシカルボニル-アスパラギン酸およびフェニルアラニンメチルエステルを加え、さらに必要に応じて金属プロテアーゼを追加してN-ベンジルオキシカルボニル-アスパラギン酸とフェニルアラニンメチルエステルとの反応および付加化合物の分離採取を繰り返すことを特徴とするN-ベンジルオキシカルボニル-L-アスパルチル-L-フェニルアラニンメチルエステルとフェニルアラニンメチルエステルとの付加化合物の製造方法。</p>
5	51-106720 (51. 9. 8)	60-23649 (60. 6. 8)	1298967 (61. 1. 31)	臭化水素酸による臭化メチルの製造方法	1 臭化水素酸とメタノールより臭化メチルを製造するにあたり、触媒として硫酸水溶液を用いて、臭化水素酸とメタノールをモル比で、 $\text{CH}_3\text{OH}/\text{HBr} > 1.0$ となるように反応帯域に導入反応せしめることを特徴とする臭化メチルの製造方法。
6	52-72085 (52. 6. 20)	60-21601 (60. 5. 28)	1298975 (61. 1. 31)	粉末ゴムの製造方法	1 アニオンもしくはノニオン性のゴムラテックスに、その乾燥重量当り、5~20重量%のポリメチルビニルエーテルおよび5~20重量%のアルカリ金属の硫酸塩もしくは炭酸塩を水溶液として加えて得られる混合物を、該ゴムラテックスの乾燥重量当り5~20重量%のアルカリ土類金属の塩化物もしくは硝酸塩を含む水溶液中に滴下混合して、該ゴムラテックスからゴムを粉末状に分離させ、ついでこれに該ゴムラテックスの乾燥重量当り1~40重量%のガラス転移温度が $30^\circ\text{C}$ 以上の合成樹脂をエマルジョンとして加え、脱水、乾燥することを特徴とする粉末ゴムの製造方法。
7	54-6135 (54. 1. 24)	60-23776 (60. 6. 10)	1298997 (61. 1. 31)	陽イオン交換膜の製造方法	1 フッ素系共重合体より成る膜状物に存在する置換基 $-\text{O}(\text{CF}_2)_n\text{COOM}$ (MはH, アルカリ金属又はアンモニウム基, $n=2\sim5$ ) より導びかれた置換基 $-\text{O}(\text{CF}_2)_n\text{I}$ ( $n=2\sim5$ ) を $-\text{O}(\text{CF}_2)_n\text{SO}_2\text{Z}$ (ZはOM, 又はNMR, MはH, アルカリ金属又はアンモニウム基, RはH, $\text{C}_1\sim\text{C}_5$ のアルキル基, 又はフェニル基) に変換することを特徴とする、存在する交換基の種類によつて隣接する層と区別される、実質的に表面に平行な二つの層から成り、一方の層に下記側鎖(a)からなる構造をもつカルボン酸基を有し、他の層には下記側鎖(b)なる構造をもつフッ素系陽イオン交換膜の製造方法。

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					(a) $-O(CF_2)_nCOOM$ (MはH, アルカリ金属又はアンモニウム基, $n=2\sim5$ ) (b) $-O(CF_2)_nSO_2Z$ (ZはOM, 又はNMR, MはH, アルカリ 金属又はアンモニウム基, RはH, $C_1\sim C_5$ のアルキル基又はフェニル基)
8	55-169503 (55. 12. 3)	60-23778 (60. 6. 10)	1299016 (61. 1. 31)	陽イオン交換膜の製法	1 末端基 $-(CF_2)_nI$ (式中 $n=1\sim6$ の整数) を有するパーフルオロカーボン重合体膜を有機 過酸で処理したのち, 続いて加水分解すること によって該膜中に, $-COOM$ で表わされる基 (式中Mは水素原子あるは金属原子から選ばれ る)を導入する陽イオン交換膜の製法。
9	56-50581 (56. 4. 6)	60-23124 (60. 6. 6)	1299021 (61. 1. 31)	接着方法	1 塩化ビニル系樹脂と塩化ビニル系樹脂ある いは他の基材を接着する方法においてエチレン $\alpha$ -酸化炭素-酢酸ビニル共重合体を接着剤と して用いることを特徴とする接着方法。
10	56-91584 (56. 6. 16)	60-24784 (60. 6. 14)	1302235 (61. 2. 14)	4-[4-(アニリノ)フェ ノキシ]-2-ペンテン酸 誘導体の製造方法	1 一般式  <p>(式中 <math>R_1</math> は塩素原子, 臭素原子またはトリフ                      ルオロメチル基, <math>R_2</math> は塩素原子, 臭素原子ま                      たはニトロ基, <math>R_3</math> は水素原子, 低級アルキル                      基または低級アルケニル基を示す)で表わされ                      る4-(アニリノ)フェノール化合物と                      一般式  <math display="block">CH_3-CH-CH-CH_2COOR_4</math> <math display="block">\begin{array}{cc}   &amp;   \\ X &amp; X \end{array}</math>                     (式中 <math>R_4</math> は水素原子または低級アルキル基,                      X はハロゲン原子を示す)で表わされる3,4-                      ジハロペンタン酸誘導体を溶媒を用い, 或いは                      用いることなく脱ハロゲン化水素試剤の存在下                      で反応させることを特徴とする一般式   <p>(式中 <math>R_1\sim R_4</math> は前記と同じ意味を示す)                      で表わされる4-[4-(アニリノ)フェノキシ]-2-                      ペンテン酸誘導体の製造方法。                 </p> </p>
11	56-179612 (56. 11. 11)	60-26497 (60. 6. 24)	1302237 (61. 2. 14)	陽イオン交換膜の製造 方法	1 カルボン酸基層を有する陽イオン交換膜に おいて, 該層上に, $0.01\mu\sim5\mu$ の厚さの範囲 で, スルホン酸基を含む層を形成させ, 続いて 該層上に化学メッキを施すことによつて, 金属 を固着することから成る陽イオン交換膜の製造 方法。

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
12	49-148659 (49. 12. 27) (永野 峰雄, 吉田 竹林)	60-20367 (60. 5. 21) (永野 峰雄, 吉田 忠夫)	1304061 (61. 2. 28) 広	塩化ビニルモノマーを 分離回収する方法	1 メチルクロライドを含む塩化ビニルモノマーから塩化ビニルモノマーを分離回収する方法において、メチルクロライドを含む塩化ビニルモノマーを活性炭層に導入し、前記活性炭が塩化ビニルモノマーで破過される以前に前記塩化ビニルモノマーの導入を止め、ついで前記活性炭層に不活性ガスを導入してメチルクロライドを展開して分離し、ついで活性炭層から塩化ビニルモノマーを回収することを特徴とする方法。
13	56-16815 (56. 2. 9) (西崎 克巳, 森下 延男)	60-31350 (60. 7. 22)	1308421 (61. 3. 26)	接着剤組成物	1 エチレン含有量が65~99%モルでありケン化度が5~100モル%のエチレン酢酸ビニル共重合体ケン化物100重量部に対し、ポリ酢酸ビニル0.5~50重量部を配合してなる接着剤組成物。
14	52-29250 (52. 3. 18) (三宅 寛, 天満 覚 本田 昭, 田中 義雄)	60-4241 (60. 2. 2)	1310309 (61. 3. 26)	表面被覆材用金属成型 体	1 クロム塩を含む溶液を有機溶媒にて抽出精製し得られたクロム塩溶液又は該溶液から得たクロム塩を酸化し、得たクロム酸化物を還元して得た高純度金属クロムを加圧成型した、スパッタリング蒸着、イオン蒸着又は電子蒸着による表面被覆用クロム成型体。
15	48-107627 (48. 9. 26) (大橋 孝一, 高橋 勇治 鈴木 孝)	60-31226 (60. 7. 20)	1310951 (61. 4. 11)	静電塗装用アクリル系 粉体塗料組成物の製造 法	1 一般式 $\begin{array}{c} R_1 O \\   \quad    \\ CH_2=C-C-O-R_2 \end{array}$ (R <sub>1</sub> はH, 又は CH <sub>3</sub> 基, R <sub>2</sub> は炭素数1~18の炭化水素基を示す) で表わされる一種以上のアクリル系単量体, またはこのアクリル系単量体と共重合し得る一種以上の単量体とを, 水性媒体中, 全単量体に対して5重量%以上20重量%未満の界面活性剤および顔料の存在下に, 更に必要に応じ, 紫外線吸収剤, かつ安定性向上剤, 分子量調整剤, 流動性向上剤および硬化剤を添加し, はげしい攪拌のもと, すなわち, タービンブレード形の羽根をもつ攪拌機を用い200~1200 rpm 程度の攪拌のもとに乳化重合させ, 直径30~250ミクロン, 体積固有電気抵抗 10 <sup>9</sup> ~10 <sup>16</sup> Ω·cm, 嵩比重0.2以上の実質的に球状よりなる重合体を得, 次いでこの重合体を水性媒体中から機械的に分離取得することを特徴とする静電塗装用アクリル系粉体塗料組成物の製造法。
16	50-115463 (50. 9. 23) (ジョン・リン・パーク レイ)	60-39437 (60. 9. 5)	1316347 (61. 5. 15)	流出液の有機炭素含有 量低下方法	1 水性のアルカリ性媒質中で3,4-ジクロロブテン-1を脱塩化水素してクロロブレンを生成させ, 次いで有機物質の大部分を蒸溜および(または)傾瀉により除去した後の水性の流出液を処理する方法において, 上記流出液を液相として保持するに十分な圧力下 100°C 以上の温度において, 少なくとも最初は pH 9~14 のアルカリ性条件下で, この流出液を塩素をもって処理することを特徴とする上記の方法。
17	52-155618 (52. 12. 26) (大木 淳雄, 三浦 正道 川上 登, 長谷川 孝 川上 勝)	60-44068 (60. 10. 1)	1318072 (61. 5. 29)	金属肉盛装置	1 (1)粉末状, 棒状, 板状等の形状をした肉盛用金属を通過させる孔を有する巾広の金属供給誘導管, (2)上下に導通したスリット状開孔部を有し, 該スリット状開孔部は, 前記金属供給誘導管を挿入内蔵し得る大きさである金属供給ノ

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					ズル本体および(3)上記金属供給ノズル本体の両側面又は片側面に設置した、該ノズル本体と概ね等しい巾を持つ火炎噴出ノズル(加熱部)を一体化してなることを特徴とする金属肉盛装置。
18	53-157590 (53. 12. 22) (坂本 木原)	60-39255 (60. 9. 5) (光久, 関沢 啓一)	1318092 (61. 5. 29) (和彦)	メタクロレインの製造方法	1 イソブチレンまたは第3級ブタノールを分子状酸素により気相接触酸化してメタクロレインを製造する際に、一般式 $Mo_aCo_bFe_cBi_dTi_eX_fY_gZ_hO_i$ (ここでXはVおよび(または)Nb, YはLa および(または)Ce, ZはCs および(または)Te であり、添字 a, b, c, d, e, f, g, h, i は各元素の原子比を表わす。) に於て、 $a=12$ のとき、 $b=3\sim 15$ , $c=0.4\sim 5$ , $d=0.4\sim 5$ , $e=0.01\sim 2$ , $f=0.01\sim 2$ , $g=0\sim 2$ , $h=0\sim 2$ , $i$ は各元素の原子価によつて自然に定める数値であり、通常40~79の値をとる、で表わされる多元系の複合酸化物触媒を使用する事を特徴とするメタクロレインの製造方法。
19	54-66081 (54. 5. 31) (桂川 木原)	60-43051 (60. 9. 26) (寛二, 属 啓一)	1318094 (61. 5. 29) (秀雄)	m-フェノキシトルエンの側鎖の臭素化方法	1 臭素化剤として、一般式 $\begin{array}{c} W \quad Z \\   \quad   \\ Br-C-C-Br \\   \quad   \\ X \quad Y \end{array}$ (式中WおよびZは Cl または Br, X およびY は Cl, Br または H を表わす。) で示される化合物を用い、液相中で水の存在下、または不在下で、m-フェノキシトルエンの臭素化を行うことを特徴とするm-フェノキシトルエンの側鎖の臭素化方法。
20	55-96857 (55. 7. 17) (清田)	60-40514 (60. 9. 11) (徹, 佐藤)	1318106 (61. 5. 29) (孝男)	陽イオン交換膜の装着方法	1 陽イオン交換基を有するパーフルオロカーボン重合体からなる陽イオン交換膜を水と混和性のある有機溶媒で膨潤させ、次いで該膜を強固なわくに取り付けて該膜から該溶媒を除去したのち、電槽に該膜を装着する方法。
21	55-107094 (55. 8. 6) (大友)	60-40462 (60. 9. 11) (寛二, 藤木)	1318108 (61. 5. 29) (時男)	ポリエチレン成型品表面の塗料密着性改善処理方法	1 ポリエチレン100重量部に(a)式及び/または(b)式で示される界面活性剤を0.01~10重量部添加して成る基材 40°C 以上ポリエチレンの融点未満の温度にて熱処理した後オゾン処理をしエチレン酢酸ビニル共重合体50~90重量%と粘着性樹脂10~50重量%の混合物、カルボキシル化エチレン共重合体、エチレン-酢酸ビニル共重合体けん化物及びポリヒドロキシポリオレフィンから成る群より選ばれた少なくとも一種のプライマーを塗布することを特徴とするポリエチレン成型品表面の塗料密着性改善処理方法。 $(a) \begin{array}{c} R_1 \\   \\ R_2 \rightarrow N^{\oplus} (CHR_4)_n SO_3^{\ominus} \\   \\ R_3 \end{array}$ $(b) \left\{ \begin{array}{c} O \\    \\ R_5 - CNH(CH_2)_m N - CH_2COO \end{array} \right\}_x \begin{array}{c} CH_2CH_2OH \\   \\ -CH_2COO \end{array} M$ 但し、(a), (b)両式において各記号は以下の内容を示す。 $R_1, R_2$ ; $C_1\sim C_5$ の炭化水素基

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					$R_3, R_5$ ; $C_7 \sim C_{21}$ の炭化水素基 $R_4$ ; H又は OH $n, m$ ; 1~7 $x$ ; 1~3 $M$ ; 有機アミンまたは Mg, Ca, Ba, Zn, Cd, Al, Sn, Pb, Mn, Fe, Co, Ni 及び Cu よりなる群から選ばれた金属
22	55-154630 (55. 11. 5) (清田 徹, 菊地 光雄)	60-42253 (60. 9. 20)	1318109 (61. 5. 29) 佐藤 孝男	陽イオン交換膜の製法	1 カルボン酸基になりうる基とスルホン酸基になりうる基を同時に有するパーフルオロカーボン重合体のフィルムとカルボン酸基になりうる基を有するパーフルオロカーボン重合体のフィルムをはり合せ、次いでカルボン酸基になりうる基およびスルホン酸基になりうる基を各々カルボン酸基およびスルホン酸基に転換することからなる陽イオン交換膜の製法。
23	56-25464 (56. 2. 25) (清田 徹)	60-44331 (60. 10. 3)	1319590 (61. 5. 29)	陽イオン交換膜の製造方法	1 スルホン酸基になりうる基を有するパーフルオロカーボン重合体からのフィルムとカルボン酸基になりうる基を有するパーフルオロカーボン重合体からのフィルムの間、カルボン酸基になりうる基とスルホン酸基になりうる基を有し、かつ、それらの組成比の異なるパーフルオロカーボン重合体からの少なくとも2種類以上のフィルムをカルボン酸基になりうる基の組成比の大きいフィルムがカルボン酸基になりうる基を有するパーフルオロカーボン重合体からのフィルムに近くなるようにそれぞれはり合せ、次いでスルホン酸基になりうる基およびカルボン酸基になりうる基を各々スルホン酸基およびカルボン酸基に転換することからなる多層状陽イオン交換膜の製造方法。
24	54-43274 (54. 4. 10) (久保 雅滋, 野中 悠次, 木原 啓一) (味の素, 相模中央化学研究所と共願)	60-49199 (60. 10. 31)	1320625 (61. 6. 11)	$\alpha$ -L-アスパルチル-L-フェニルアラニン低級アルキルエステルの精製法	1 夾雑物を含む $\alpha$ -L-アスパルチル-L-フェニルアラニン低級アルキルエステルを水性媒体中で Cl 型のアニオン交換樹脂と接触させ、夾雑物をこのアニオン交換樹脂に吸着させて除去することを特徴とする $\alpha$ -L-アスパルチル-L-フェニルアラニン低級アルキルエステルの精製法。
25	56-77521 (56. 5. 21) (高木 弘義, 西岡 憲一, 鈴木 一) (工業技術院, 日本化学陶業と共願)	59-39367 (59. 9. 22)	1320727 (61. 6. 11)	0.05~0.2 $\mu$ m の酸化ジルコニウム微粉体の製造方法	1 水溶性ジルコニウム塩の水溶液又は水溶性ジルコニウム塩とマグネシウム, カルシウム及びイットリウムの少なくとも1種とを含む水溶液にアンモニア水を加えて沈澱を形成させ、沈澱物を母液から分離した後、水洗し、次いでこれに有機溶媒を加え、加熱蒸溜した後、ジルコニウムを含む微粒子を有機溶剤から分離し、減圧下又は大気圧下で乾燥した後、300~1200°C で加熱処理することを特徴とする酸化ジルコニウム微粉体の製造方法。
26	52-55295 (52. 5. 16) (山本 勸助)	60-48707 (60. 10. 29)	1320852 (61. 6. 11)	電解工場における短絡スイッチの絶縁劣化検出方法	1 接地を撤去した短絡スイッチ鉄台と対地間に電圧計を設置して、短絡スイッチ鉄台に充電する充電電圧を該電圧計にて測定し、その電圧値より絶縁劣化を起した短絡スイッチを検出することを特徴とする電解工場における短絡スイッチの絶縁劣化検出方法。

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
27	52-87246 (52. 7. 22) (坂本	60-48495 (60. 10. 28) 光久, 中村	1320854 (61. 6. 11) 重男)	メタクリル酸の製造法	<p>1 メタクロレインを分子状酸素または分子状酸素を含有する混合ガスにより気相接触酸化してメタクリル酸を製造する際に、一般式 <math>Mo_aP_bAs_cCu_dCr_eX_fO_g</math> (ここでXは Ce, Nd, W および Fe の中の少なくとも一種の元素を表わし、添字 a, b, c, d, e, f, g はそれぞれ各元素の原子比を表わす。) に於てその組成が、<math>a=12</math> のとき、<math>b=0.5\sim 3.0</math>、<math>c=0.01\sim 1.2</math>、<math>d=0.01\sim 2.0</math>、<math>e=0.05\sim 2.0</math>、<math>f=0\sim 1.0</math>、g は各元素の原子価により自然に定まる数値で通常37~58の値をとる、で表わされる多元系の複合酸化物を触媒として使用することを特徴とするメタクリル酸の製造法。</p> <p>2 メタクロレインを分子状酸素または分子状酸素を含有する混合ガスにより気相接触酸化してメタクリル酸を製造する際に、一般式 <math>Mo_aP_bAs_cCu_dCr_eX_fO_g</math> (ここでXは Ce, Nd, W および Fe の中の少なくとも一種の元素を表わし、添字 a, b, c, d, e, f, g はそれぞれ各元素の原子比を表わす。) に於てその組成が、<math>a=12</math> のとき、<math>b=0.5\sim 3.0</math>、<math>c=0.01\sim 1.2</math>、<math>d=0.01\sim 2.0</math>、<math>e=0.05\sim 2.0</math>、<math>f=0\sim 1.0</math>、g は各元素の原子価により自然に定まる数値で通常37~58の値をとる、で表わされる多元系の複合酸化物であつて、二塩基性カルボン酸類、オキシカルボン酸類、マンニツトおよびピロガロールのうちの少なくとも一種を添加して調製した触媒を使用することを特徴とするメタクリル酸の製造法。</p>
28	52-87247 (52. 7. 22) (坂本	60-48496 (60. 10. 28) 光久, 中村	1320855 (61. 6. 11) 重男 谷口	メタクリル酸の製造方法	<p>1 メタクロレインを分子状酸素または分子状酸素を含有する混合ガスにより気相接触酸化してメタクリル酸を製造する際に、モリブデン、リン、砒素、バナジウム、銅およびセリウムあるいはこれに更にクロムを含む、一般式 <math>Mo_aP_bAs_cV_dCu_eCe_fCr_gO_h</math> (ここで添字 a, b, c, d, e, f, g, h はそれぞれ各元素の原子比を表わす。) に於てその組成が <math>a=12</math> のとき、<math>b=0.5\sim 3.0</math>、<math>c=0.01\sim 1.2</math>、<math>d=0.01\sim 2.0</math>、<math>e=0.01\sim 2.0</math>、<math>f=0.01\sim 1.2</math>、<math>g=0\sim 2.0</math>、h は各元素の原子価により自然に定まる数値で通常37~60の値をとる、で表わされる多元系の複合酸化物を触媒として使用することを特徴とするメタクリル酸の製造方法。</p> <p>2 メタクロレインを分子状酸素または分子状酸素を含有する混合ガスにより気相接触酸化してメタクリル酸を製造する際に、モリブデン、リン、砒素、バナジウム、銅およびセリウムあるいはこれに更にクロムを含む、一般式 <math>Mo_aP_bAs_cV_dCu_eCe_fCr_gO_h</math> (ここで添字 a, b, c, d, e, f, g, h はそれぞれ各元素の原子比を表わす。) に於てその組成が <math>a=12</math> のとき、<math>b=0.5\sim 3.0</math>、<math>c=0.01\sim 1.2</math>、<math>d=0.01\sim 2.0</math>、<math>e=0.01\sim 2.0</math>、<math>f=0.01\sim 1.2</math>、<math>g=0\sim 2.0</math>、h は各元素の原子価により自然に定まる数値で通常37~60の値をとる、で表わされる多元系の複合酸化物であつて、二塩基性カルボン酸類、オキシカルボン酸類、マンニツトおよびピロガロールのうちの少なくとも一種を添加して調製した触媒を使用することを特徴とするメタクリル酸の製造方法。</p>

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
29	53-65714 (53. 6. 2) (小泉 村田)	60-49132 (60. 10. 31) 光恵, 上田 寛志)	1320864 (61. 6. 11) 智	高純度モルデナイト型 結晶性ゼオライトの製 造法	1 Na <sub>2</sub> O-Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> -SiO <sub>2</sub> -H <sub>2</sub> O からなる系からモルデナイト型結晶性ゼオライトを製造する方法において、反応系の組成をモル比で表わして、SiO <sub>2</sub> /Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> :182~586, Na <sub>2</sub> O/Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> :59~133, H <sub>2</sub> O/Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> :1765~8000 の範囲で反応を行うことを特徴とする高純度モルデナイト型結晶性ゼオライトの製造法。
30	56-64271 (56. 4. 30) (鳴井 坂中)	60-50362 (60. 11. 8) 衛, 中川 靖弘)	1320916 (61. 6. 11) 辰司	クロロスルホン化ポリ エチレンの製法	1 ポリエチレンを溶媒に溶解し、これに塩素と塩化スルフリルまたは塩化スルフリルを単独で反応させてクロロスルホン化ポリエチレンを製造するに際し、溶媒として四塩化炭素とハロゲン化芳香族化合物からなり、後者の比率がその総量の0.5~20重量%である混合溶媒を用いることを特徴とするクロロスルホン化ポリエチレンの製法。
31	56-84413 (56. 6. 3) (伊原 川嶋 崎山 (橋本功二と共願)	60-46186 (60. 10. 15) 義尚, 橋本 朝日, 榑 和孝)	1320917 (61. 6. 11) 功二 孝	非晶質金属表面の活性 化方法	1 非晶質金属表面に亜鉛を拡散浸透させ、しかる後、アルカリ又は酸溶液で浸透亜鉛を選択的に浸出することを特徴とする非晶質金属表面の活性化方法。
32	53-150511 (53. 12. 7) (坂本 関沢)	59-53096 (59. 12. 22) 光久, 田中 和彦, 木原	1323055 (61. 6. 27) 哲夫 啓一)	メタクリル酸製造用触 媒	1 メタクロレインを気相接触酸化してメタクリル酸を製造する際に用いる触媒にして、pH 5 以下の塩酸、硫酸あるいは硝酸酸性下に沈澱生成せしめて分離した砒素モリブデン酸アンモニウム、あるいは砒素モリブデン酸アンモニウムおよびリンモリブデン酸アンモニウムを用いて調製した 式 Mo <sub>a</sub> As <sub>b</sub> P <sub>c</sub> (NH <sub>4</sub> ) <sub>d</sub> (ここで a, b, c, d はそれぞれ Mo, As, P, (NH <sub>4</sub> ) の原子比を表わし、a=12 のとき、b=0.1~4, c=0~2 (ただし、b+c=0.5~3), d=0.01~3 である。) で表わされる触媒。
33	56-133773 (56. 8. 25) (高木 鈴木 (工業技術院, 日本化学陶業 と共願)	60-49140 (60. 10. 31) 弘義, 西岡 憲一	1325168 (61. 6. 27) 憲一	酸化錫系微粉体の製造 方法	1 水溶性錫塩の水溶液又は水溶性錫塩とアンチモン、インジウム、ガリウム及びビスマスの少なくとも1種とを含む水溶液を pH 6 以下で加水分解することによりコロイド粒子を生成させ、次いでこれに有機溶媒を加え、加熱蒸留した後、錫を含む微粒子を有機溶媒から分離し、減圧下又は大気圧下で乾燥した後、30~1200°C で加熱処理することを特徴とする酸化錫系微粉体の製造方法。 2 水溶性錫塩の水溶液又は水溶性錫塩とアンチモン、インジウム、ガリウム及びビスマスの少なくとも1種とを含む水溶液にアンモニア水を加えて沈澱を形成させ、該沈澱物を母液から分離した後、水洗し、次いでこれに有機溶媒を加え、加熱蒸留した後、錫を含む微粒子を有機溶媒から分離し、減圧下又は大気圧下で乾燥した後、300~1200°C で加熱処理することを特徴とする酸化錫系微粉体の製造方法。
34	55-74178 (55. 6. 4) (新海 征治, 真鍋 修)	60-52742 (60. 11. 21)	1327962 (61. 7. 30)	カルボン酸類の製造方 法	1 一般式 O    R <sub>1</sub> -C-H であらわされるアルデヒド類 (但し式中 R <sub>1</sub> は